

# 学校関係者評価 報告書

評価対象期間

2020年4月1日から2021年3月31日

2021年5月29日

学校法人 京都外国語大学

京都外国語専門学校

本校が行った自己点検評価結果について、学校に関係の深い方たちに評価いただくことを基本とするもので、結果として自己評価そのものの質を高め、改善につなげることを目的とします。

目的Ⅰ 学校経営の改革方針や自己評価等の質を高め、次への改善につなげる。

目的Ⅱ 学校運営や教育活動への学校関係者の協力や参画を得て、地域に開かれた信頼される学校づくりを実現する。

目的Ⅲ 設置者は学校関係者評価の結果をもとに適切な支援を行う。

具体的には、以下の4つの視点で評価をいただきたい。

- ① 学校経営の改革方針の内容が適切かどうか。
- ② 普段の学校の取り組みが「目指す学校像」を実現するためのものになっているかどうか。
- ③ 学校の自己評価が適切に行われているかどうか。
- ④ 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。

#### 【評価委員名簿】

以下のメンバーを評価員として、委嘱した。

氏名	所属	種別
太田垣 敏信	株式会社ライン特別顧問(人材教育)	関連業界関係者
江崎 健太郎	江崎器械株式会社代表取締役社長	卒業生
森 誠司	私立高等学校講師	教育に知見を有する者
濱崎 祐之	学校法人職員	教育に知見を有する者

事務局 河村 光雅(京都外国語専門学校 副校長)

稲生 豊(京都外国語専門学校 課長)

2020年度学校関係者評価委員会開催日

日時:2021年5月29日(土)10時00分～11時30分

場所:京都外国語専門学校 会議室

次第:

1. 開会のあいさつ
2. 委員紹介
3. 関係資料の説明及び検討・意見交換
4. 2020年度学校関係者評価に向けての意見交換
5. まとめの報告 事務局
6. 閉会のあいさつ

関係資料

2020年度京都外国語専門学校 学校案内

2020年度京都外国語専門学校HP

2020年度自己点検評価報告書

事業計画・事業報告

2020年度春学期授業アンケート結果(9月)

2020年度秋学期授業アンケート結果(2月)

## 基準項目ごとの学校関係者評価及び意見のまとめ

### 1. 教育理念・目標・育成人材像など

- 学校法人 京都外国語大学の建学の精神を受けて教育目標や育成人材像は明確である。また、ホームページや学生便覧などを通して、在校生や入学希望者には、明確にメッセージとして、伝わっている。
- コロナ禍で、日々変化する国際情勢や国内状況に伴い、社会から学校に求められる教育内容も変化して行くと思われるが、本質を見誤らずに、学校運営に当たってほしい。

### 2. 学校運営

- 学校運営については、学校法人 京都外国語大学の各種規定に基づき運営されている。稟議処理システムで意思決定についても、教育の問題と経営（事務系等）の問題と区別され、それぞれ明確に運用されている。
- 大学との連携では、法人のIT担当の支援も受けながら遠隔授業のプラットフォーム整備ができたので、今後も昨年度と同様、連携強化に取り組み、IT環境の整備、情報システムの効率化を図っていけばいいと思われる。
- 単年度の事業計画は設定されているが、中長期計画も明確にした方がよいと思う。

### 3. 教育活動

- 今年度は新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言が発出されたため、入学式・オリエンテーションも実施できずに混乱のうちに新年度がスタートした。学生や教職員の安全安心のために、授業も遠隔授業でスタートした。今まで遠隔授業に対するノウハウの蓄積もない状態で、マイクロソフト社のTeamsを使用して、授業を行うことを決定し、5月7日までの1か月で、授業準備を整えて、授業を始めることができたのは、先生方をはじめ職員の努力によるものと思う。
- 学生の授業アンケートは年2回（春・秋）実施しているが、それらの結果を見ても、春学期は遠隔授業ではあったが、昨年度のアンケートと比較しても学生の授業に対する満足度が下がったり、授業の質が落ちたといった意見は見受けられなかった。遠隔授業の良さもあるので、それらも取り入れながら、授業の質を上げていけるように工夫をしてほしい。
- しかしながら、自己点検では触れられていなかったが、今年度を終えて、学科や科目の特性もあるが、遠隔授業のメリット・デメリットを検証して、授業内容を均質化できるようにして遠隔授業運営指針などを策定しておくべきであろう。
- 教育活における、設置校間の連携については、もう少し工夫（高専連携や専大連携など）が必要であろうと思う。

#### 4. 学修成果

- コロナの影響で、空港関係やホテルなどへの就職については、かなり苦戦した様子が見受けられたが、就職率・編入率は90%を達成できている。2021年度も今年度と同様に厳しい年となると思うが、高い数値目標をもって取り組んでほしい。
- 空港業界、ホテル・旅行業界への求人状況は、今後数年は改善しないことも予想されるので、これに代わる卒業生の受け皿の開拓などにも力を入れなければいけないのではないか。
- 昨年度も指摘されている就職後の卒業生の状況や編入後の卒業生の進路など、把握出来ていない点は取り組めていなかったようなので、継続して取り組んでほしい。

#### 5. 学生支援

- 今年度は、コロナ禍で、退学者の増加が予想されたが、退学率は抑えられたようには思われる。英米語学科は、担当教員が1年生にマンツーマンで対応し、相談などを受け付け、早期に学生たちが抱えている問題に対応できたことがよかったと思われる。
- コロナ禍で遠隔授業が中心だったために、学生同士のつながりなどが希薄になっていて学生のメンタルヘルス(こころの健康)が案じられる。カウンセラーとも連携して対応をしていってほしい。
- 学友会活動も、コロナの影響で全く活動ができなかったようで、先輩から後輩へとつなぐことが出来なかったタスキが、途絶えてしまったように思われる。再度、学友会の活動を復活させて、学生間のつながりを再構築してほしい。
- 経済的な支援については、2020年度から始まった修学支援の新制度を91名が利用した。今後も増加する可能性もあり、学校法人としての奨学金制度なども積極的に広報していくべきだと思う。

#### 6. 教育環境

- 今後のICT教育の可能性も検討してEduroamに加入してWi-fi環境の整備を行い、各教室においても、Wi-fiが利用できるようになったのはよかった。ICT教育の可能性も積極的に検討していけばよいと思う。
- コロナ禍の影響を受けて派遣・交換留学を中止するなど、危機管理体制は機能していると思われる。学生の健康を守るために安全・安心の教育環境を守ってほしい。

#### 7. 学生の募集と受け入れ

- アドミッションポリシーについてはホームページなどで示されており、見学会などを通して、学校教育の進め方などは明確にされている。
- 入試についても、面接と書類で総合評価しており選考は適正に実施されている。
- 学科により、入学希望者数に差があり、解消に向けての取り組みが必要であろう。

## 8. 財務

- 監査法人による年2回の監査も実施されており、決算についても学校法人として情報公開は行われている。

## 9. 法令などの遵守

- 情報公開については、修学支援の新制度の申請要件として公表を義務付けられたために公開するようになっているが、今後もHPなどを通して、情報公開を進めていった方がよい。
- 個人情報保護については規程に基づき、適正に管理されているが、今後、個人情報の取り扱いなどについては教職員への研修も行っていくべきだ。
- またハラスメントなどについても、社会の考え方や意識が変化していることから、個人情報と合わせて、教職員への研修を行った方がよい。

## 10. 社会貢献・地域貢献

- 京都外国語大学が実施している「生涯学習講座」のアジア言語を専門学校で開講する予定であったが、コロナ禍のために中止となったのは残念であった。今後は是非再開してほしい。
- 社会や地域に対する貢献活動は、あまり積極的に実施できていないようにも思われる。今後は力を入れていっても良いと思う。

## 11. 国際交流

- 今年度は、海外セミナー、日本語研修の受け入れ、派遣留学、交換留学など海外との交流が途絶えた状況となってしまった。状況を見て、早期に元の状態に戻せるように心がけてほしい。